

平成 24 年

第 1 回仙北市議会定例会

教 育 行 政 方 針

仙北市教育委員会

平成24年第1回仙北市議会定例会の開会にあたり、平成24年度の教育行政方針を申し上げます。

◇ はじめに

平成23年度は東日本大震災により、市民一人一人の命を守る危機管理の在り方を見直す機会となりました。教育委員会としてはこの教訓を生かして、市内幼稚園、小・中学校において、ライフラインが絶たれた場合の緊急連絡体制の構築などを含め、防災マニュアルの改善や防災教育への不断の取り組みの充実を図ってきたところであります。平成24年度は、大震災の教訓を風化させることなく、自らの命を守る防災教育の充実と学校関係の防災体制の整備、さらには避難所としての整備等にも努めて参ります。

平成24年度は、中学校の新学習指導要領が全面実施されることから、新学習指導要領の趣旨を生かした知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成、特に仙北市としては「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身につけた子ども」の育成をめざして、キャリア教育の視点を生かしたふるさと教育の推進を柱として、学校教育の充実に努めて参ります。

また、来るべき生涯学習社会の実現に向けて、市民が生涯にわたって生きがいを持ち、自ら学び続けると共に、その成果が適切に生かされ、地域全体の教育力が高まるような社会教育行政を推進して参ります。

スポーツの振興につきましては、各種イベント・大会の更なる充実を図ると共に、市民の生涯スポーツの振興・普及のため体育施設等の環境整備に努め、各種市民スポーツ事業を積極的に推進して参ります。

平成23年度に制定された「仙北市市民読書条例」に則り、学習資料館、田沢湖図書館、西木公民館が連携し、三館の相互貸借を一層推進して、市民の図書館資料の更なる有効利用に努めて参ります。

また、平成23年度から取り組んでいる重要伝統的建造物群保存地区防災計画策定事業については、地区住民や観光客への避難対策など

も盛り込み、一般住民にわかりやすい内容となるよう努めると共に、長年の課題であった秋田藩角館郷校「弘道書院」復元については、平成24年度にその方向性をとりまとめ、できるだけ早い時期での本格的な復元事業への着手を図ります。

次に各課について申し上げます。

【教育総務課】

子どもたちが一日の大半を過ごす学校は、災害時の緊急避難場所としても安全性の確保がきわめて重要な施設であり、施設の諸工事、維持修繕事業等につきましても、各学校施設ごとの必要性や緊急性等を勘案しつつ計画的に進めて参ります。特に、幼稚園、小・中学校の非構造部材耐震点検による更なる安全対策や、消防法による地下タンク基準強化に対応して、生保内小学校と神代中学校の地下タンクの改修並びに暖房設備更新も行います。

また、遠距離児童通学対策として平成23年度の桜木内小学校に引き続き平成24年度は、桜木内中学校のスクールバスを更新し、児童の安全性確保等通学環境の整備に努めて参ります。

【教育指導課】

平成24年度の小・中学校新入学児童・生徒数は、小学校192名、中学校230名が予定されており、平成23年度と比較して小学校が11名、中学校が7名、それぞれ減少しております。

平成22年度から中川小学校と白岩小学校で複式学級が生じており、その対象学年について、平成23年度は県費負担教職員及び講師を配置していただき、複式学級・複式授業の解消を図ってきたところであります。平成24年度においても、両校で複式学級が生じる見込みであり、市費負担による非常勤講師（複式学級指導支援員）を配置し、複式授業の解消を図ることとしておりますが、平成23年度に引き続き、県教育委員会から県費教職員及び講師を配置していただくよう強く要望して参りたいと考えており

ます。

平成23年度は東日本大震災により国による集計・分析が実施されなかった「全国学力・学習状況調査」につきまして、平成24年度は新たに理科の科目を加え、平成22年度と同様に抽出校調査方式で実施いたします。現時点では中学校が2校、小学校3校が対象候補校として通知を受けて参加する予定になっております。その他の抽出対象以外の学校においても、問題用紙の送付を申し出て、調査の結果を日常の学習活動に活用することにしております。

【北浦教育文化研究所】

平成23年度に設置された北浦教育文化研究所では、秋田県教育委員会南教育事務所並びに仙北出張所の指導主事と連携しながら、市内小・中学校の学校訪問を実施し、授業参観、授業研究会の指導助言の他、市内研修会を開催し、市内児童生徒の学力向上に向けた授業改善、教職員の資質向上に努めて参りました。また、不登校適応教室（さくら教室）の2名の指導員を中心として、不登校児童生徒への対応や対策、相談活動等を実施して参りました。

さらに平成23年度から小学校で始まった小学校外国語活動における授業の充実のため、小学校外国語指導助手（緊急雇用対策事業による臨時職員）1名を配置し、授業の支援に努めて参りました。

この他に、教育委員会だよりを発行し、市内小中学校の特色ある取組を中心に、教育委員会の取組を市民に広く広報することに努めて参りました。

平成24年度は、市内学校教育のさらなる発展と向上を目指して、引き続きこれまでの取組を充実させていくとともに、新たに、仙北市の歴史、文化、人材等を生かすための教材と資料の整備を進め、ふるさと教育とキャリア教育の一層の推進を図って参ります。

【生涯学習課・公民館】

平成20年に策定された「第1次仙北市社会教育中期計画」が平成24年で終了することに伴い、平成25年度からの「第2次仙北市社会教育中期計画」を平成24年度中に策定します。社会教育の

役割は市民の自主的な学習を支援し、学習の機会を提供し、環境を整備することとされており、「第2次仙北市社会教育中期計画」では、生涯学習の推進、芸術・文化活動の振興、文化財の保存など、仙北市の社会教育すべての指針となるような計画を策定したいと考えております。

公民館では、市民一人一人が、生涯にわたり主体的な学習活動をとおして自らを高め、心豊かな生活が送られるよう、本市の豊かな自然環境や教育資源を活かしながら、市民協働による活力ある地域社会の実現に向け、市民のニーズやライフスタイルに即した各種事業を展開して参ります。

公民館の主要事業の一つである「市民文化祭」につきましても、各地区文化祭実行委員会や文化・芸術団体等が一丸となって、平成23年度に「第1回仙北市総合美術展」を開催し、絵画や書、写真など124点もの作品が出品されました。この他に、地域の魅力発信や継続的な賑わいの創出を目的として市内の芸術活動などを支援する「せんぼくアートプロジェクト推進事業」も継続し、平成26年度の「国民文化祭」に向けた市民の文化・芸術活動への気運を盛り上げて参ります。

【学習資料館・新潮社記念文学館】

平成23年度に制定されました「仙北市市民読書条例」に則り平成24年度以降も田沢湖図書館、西木公民館、学習資料館が連携し、市民の読書環境を整備するとともに、引き続き学校図書館の支援も継続して参ります。

4月からは、西木公民館でも学習資料館利用者カードを発行できる準備が整い、田沢湖図書館利用者カードのいずれか1枚のカードで三館の利用が可能になります。読みたい本の予約申込みを通して三館の相互貸借を推進し、図書館資料の有効利用に努めて参ります。

新潮社記念文学館では、文学と郷土の歴史や文化を学び親しむ様々な企画展を開催して参ります。4月中旬から日本近代文学館の協力を得て「愛の手紙—文学者の様々な愛のかたち」展を開催し、

秋田県公文書館巡回展「武士の日記を読む」展、わらび座舞踏劇『遠野物語』関連企画の「遠野物語をめぐるて」展、三館特別展「川端龍子」展等を計画しております。

【市民会館】

平成23年11月3日に発生した、仙北市民会館ホール天井照明ボックス点検用蓋落下事故により、市民会館は現在も閉館状態が続いており、市民の皆様には多大なご迷惑をおかけしております。深くお詫びを申し上げます。

市民の皆様にも一日も早く市民会館を利用していただけるよう、点検・調査の結果指摘があった箇所について、必要な補強工事を早期に実施し安全の確保に努めて参ります。

また、仙北市民会館は、昭和55年の竣工から31年も経過しており、この間大きな地震も数回発生していることから、構造物耐震診断と非構造物の耐震診断を実施し、さらに安全の確保に努めて参ります。

【スポーツ振興課】

市民が運動やスポーツを通して健康に対する意識を高めるきっかけづくりとして、毎年5月の最終水曜日に全国一斉に開催される住民総参加型スポーツイベント「チャレンジデー」に参加を予定しております。平成23年度以上に市民一人一人に開催意義を理解していただけるよう周知を図り、「健康づくり」や「生涯スポーツの推進」に努めて参ります。

次に、東北地区最大のスポーツイベントである第39回東北総合体育大会が、秋田県を主会場に開催されます。本市ではカヌー競技大会（生保内玉川特設会場）が7月21日から22日、馬術競技大会（市馬術競技場）が8月17から19日に開催される予定になっております。東北を代表するアスリート達が競う最大のスポーツイベントになりますので、スポーツの持つ素晴らしさを多くの市民に

観戦していただけるようPR活動に努めて参ります。

また、11月7日から8日の両日には、第48回東北高等学校駅伝競走大会・第23回東北高等学校女子駅伝競走大会が、田沢湖周回特設コースを会場に、東北各県の代表チームが参加し開催されることになっております。若さと情熱と夢を一本の襷につなぐその姿は、市民に大きな感動を与えられるものと期待しております。

平成24年度も、生涯スポーツの振興・普及のための環境整備等に努め、各種事業を積極的に推進して参ります。

【文化財課】

平成24年度の重要伝統的建造物群保存地区保存事業は、河原田家文庫蔵外壁の修理助成の1件を予定しております。

平成23年度から委員会を立ち上げ進めております「重要伝統的建造物群保存地区防災計画」については、歴史的町並みと武家屋敷保存に向け木造建造物や環境物件である景観樹木などの火災や地震等に対する対策、地区住民や多くの観光客の避難対策など、一般住民にもわかりやすい防災計画として策定する予定であります。

秋田藩角館郷校「弘道書院」復元につきましても平成23年度に委員会を立ち上げ、その所見に基づく復元及び具体的な利活用について、平成24年度は復元の方角性を取りまとめることにしております。

平成24年度全国山・鉾・屋台保存連合会によります「祭屋台等製作修理技術者研修会」が仙北市を会場に10月頃開催される予定であります。

仙北市の花「桜」については引き続き、名勝指定の桧木内川堤、田沢湖高原高野地区で整枝作業を、西木町かたまえ山森林公園で施肥作業等に取り組むことにしております。

【角館町平福記念美術館】

平福記念美術館では、平成24年度に6回の企画展開催を予定しております。6月には、東日本大震災被災地、福島県出身の画人二人の展覧会を、東日本大震災復興支援展覧会として「がんばろう福島！福島の画人廣長威彦・米倉兌」展を予定しております。

展示作品は、廣長先生の日本全国の古民家を題材とした版画と米倉先生の水墨で描かれた隣国中国の風景や松屋芭蕉の「奥の細道」をテーマとした作品と、両作家の、仙北市を始め県内を度々訪れ描かれた作品の構成を予定しております。廣長先生からは、平成12年に樺細工伝承館へ版画20点を寄贈いただいております。

また、9月には、樺細工伝承館、新潮社記念文学館との合同企画4年目の事業として、文化勲章受章者で大正から昭和にかけて活躍し、日本画壇の巨匠として知られている日本画家「川端龍子」（1885～1984）の展覧会を、川端龍子記念館（東京都大田区）とご遺族の方々から出品のご協力をいただき開催致します。

川端龍子は、平福百穂と非常に関わりがあり、国民新聞社時代に表紙や挿絵を担当した当時、百穂の日本画技法から多大な影響を受け、日本画への転向と大画面制作への志向を決意する契機になりました。また、美術館前庭に百穂七回忌に建立された歌碑の題字を揮毫しております。百穂の二男の奥様は、川端龍子のお孫さんであります。

美術館では、龍子の得意とした会場芸術と称される大画面の大作の展示を予定しております。

美術館においては、今後もより多くの皆様から気軽に芸術作品を鑑賞していただけるよう創意工夫に努めて参ります。

以上、教育行政方針について申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきましても慎重ご審議のうえ、何卒ご可決賜りますようお願い申し上げます。